

窓が見ていた景色

鈴木のだみは、これまでに多くの場所で、解体される民家の窓ガラスや古い鏡を感光、加工して、その窓や鏡がかつて見ていた景色をそこに再現させてきた。

《Other Days, Other Eyes: 村田邸 2 階北の窓》に使用されたのは、前橋のある邸宅の二階にある北向きの窓である。奥には桜のある小さな神社が見え、写真には写っていないが、天気の良い時には赤城山の裾野も見える。空っ風が強く、窓から隙間風が入り込むために交換された。その後、この窓から見えていた場所には新しい家屋が建てられ、焼き付けられた景色はもう存在しない。

清澄白河（東京）では、建て壊しが決まっていた白河二丁目町会会館の大小様々な窓に、そこから見えていたであろう景色が焼き付けられた。窓はもとの場所に戻され、建物の内部から光を当てて展示された。町会で写真の提供を呼びかけ、かつてその場所で撮影された思い出の写真が寄せられた。正面1階のガラス戸には、かつての下町らしい祭りの様子が、2階の窓には、高層の建物が少ない頃にはそこから見えていた隅田川の花火が、時を超えて再現された。建物側面には撮影時に窓から見えていた、現在の風景が焼き付けられた。時を超えた思い出を纏いながら発光する建て壊し直前の町会会館には、夕方になると近所の人々が集まってきて昔話に花を咲かせていた。この町会会館も既に建て直され、今は新しい建物となっている。



鈴木のだみ 《The Light of Other Days : 白河二丁目町会会館》2018
「MOT サテライト 2018 秋 うごきだす物語」（東京都現代美術館）展示風景 写真：白井晴幸

来年、アーツ前橋で開催予定の展覧会に向けて、鈴木は再び前橋での制作を進めている。場所を取り壊し間近の理髪店である。1階が店舗、2階が住居であったその場所には、理髪店や家族の日々の思い出の時間が流れていたが、間もなく、その建物も取り壊される。窓が見ていた景色、失われゆく風景が焼き付けられることで、窓ガラスは、過去の記憶やそこに流れていた時間を蓄え、写真へと変容していく。